

(発表資料)

平成18年 5月25日
財団法人 放送文化基金

第32回「放送文化基金賞」

財団法人放送文化基金(理事長 河竹 登志夫)では、第32回放送文化基金賞を次のとおり(詳細別紙)決定しました。

1 番組部門 14番組、5件

- (1) テレビドキュメンタリー番組..... 6番組
本賞 1 優秀賞 該当なし テレビドキュメンタリー番組賞 5
- (2) テレビドラマ番組..... 4番組
本賞 1 優秀賞 1 テレビドラマ番組賞 2
- (3) ラジオ番組..... 4番組
本賞 該当なし 優秀賞 2 ラジオ番組賞 2
- (4) 個別分野賞..... 5件
 - 「出演者賞」 2件
 - 「企画・制作賞」 1件
 - 「企画賞」 1件
 - 「映像賞」 1件

2 個人・グループ部門 8件

- (1) 放送文化..... 4件
- (2) 放送技術..... 4件

受賞番組、受賞者には、賞状、賞牌・トロフィー、賞金を贈呈します。

賞金は、番組部門・本賞 200万円、優秀賞 100万円、各番組賞 50万円、番組部門の個別分野賞 各30万円、個人・グループ部門 各50万円です。

なお、贈呈式は、平成18年6月16日(金)午後4時30分から千代田放送会館ホール(東京都千代田区紀尾井町)で実施します。

お問い合わせ先 放送文化基金
東京都渋谷区宇田川町41 1共同ビル5F
(03)3464-3131
(担当 小野寺、安部)

第32回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門		賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績	
番 組	テレビドキュメンタリー番組	本賞 (200万円)	NHK広島放送局	NHKスペシャル 被爆者 命の記録 ~放射線と闘う人々の60年~	
		優秀賞 (100万円)	該当なし		
		(50万円)	北海道文化放送	日曜ノンフィクション ある出所者の軌跡 ~浅草レッサーパンダ事件の深層~	
		(50万円)	沖縄テレビ放送	第20回民教協スペシャル 戦争を笑え ~命ぬ御祝事さびら! 沖縄・伝説の芸人ブーテン~	
		テレビドキュメンタリー番組賞 (50万円)	NHK沖縄放送局	NHKスペシャル 沖縄 よみがえる戦場 ~読谷村民2500人が語る地上戦~	
		(50万円)	札幌テレビ放送	大地の選択 ~遺伝子組換え論争~	
		(50万円)	NHK	NHKスペシャル 立花隆最前線報告 サイボーグ技術が人類を変える	
	テレビドラマ番組	本賞 (200万円)	NHK	クライマーズ・ハイ 前編	
		優秀賞 (100万円)	日本テレビ放送網	女王の教室 第1回、最終回	
		テレビドラマ番組賞 (50万円)	NHK	正月時代劇 新選組!! ~土方歳三 最期の日~	
		(50万円)	WOWOW、オーバー・ゼロ	ドラマW 対岸の彼女	
	ラジオ番組	本賞 (200万円)	該当なし		
		優秀賞	(100万円)	えふえむ・エヌ・ワン	1949年のボレロ ~金沢アメリカ文化センター小史・占領と交流の日々~ 総集編
			(100万円)	NHK盛岡放送局	土曜ジャーナル シンガーソングライター・松本哲也 ~大切なあなたへ捧ぐ歌~
		ラジオ番組賞 (50万円)	RKB毎日放送	ガクランを着た乙女達	
		(50万円)	エフエム東京	ザ・ライン ~僕たちの境界線~	
	個別分野	出演者賞 (30万円)	天海 祐希	『女王の教室 第1回、最終回』の演技	
		出演者賞 (30万円)	佐藤 浩市	『クライマーズ・ハイ 前編』の演技	
		企画・制作賞 (30万円)	川上 正、山里 孫存	『第20回民教協スペシャル 戦争を笑え ~命ぬ御祝事さびら! 沖縄・伝説の芸人ブーテン~』の企画・制作	
		企画賞 (30万円)	津川 洋二、安田 瑞代	『ガクランを着た乙女達』の企画	
映像賞 (30万円)		山口 大純	『NHKスペシャル 被爆者 命の記録 ~放射線と闘う人々の60年~』の映像		
個人・グループ部門	放送文化	(50万円)	井上 由美子 (脚本家)	優れたテレビドラマの脚本の執筆	
		(50万円)	長嶋 甲兵 (テレコムスタッフ 演出家・プロデューサー)	既存の枠を越えた新しい手法による番組の制作と演出	
		(50万円)	NHK『あの日 昭和20年の記憶』制作グループ (NHK、NHKエデュケーショナル、東京ビデオセンター)	戦後60年にふさわしい番組の企画・制作	
		(50万円)	NHK『列島縦断 鉄道乗りつくしの旅』制作グループ (NHK、NHKエンタープライズ、えふぶんの音)	日めぐり中継による新しい紀行番組の確立	
放送技術	(50万円)	マージン測定装置開発グループ 代表 佐藤 誠 (日本テレビ放送網)	地上デジタル放送用マージン測定装置の開発		
	(50万円)	地上デジタル放送ハイビジョン移動受信開発グループ 代表 高田 政幸 (NHK)	地上デジタル放送ハイビジョン移動受信方式の開発と実用化		
	(50万円)	SFN放送波中継用回り込みキャンセラ開発グループ 代表 澁谷 一彦 (NHK)	SFN放送波中継用回り込みキャンセラの開発と実用化		
	(50万円)	デジタルFPU方向調整支援システム開発グループ 代表 梶原 巧 (TBS)	デジタルFPU方向調整支援システム「見つける君」の開発		

*番組部門の優秀賞、各番組賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第32回 放送文化基金賞
「番組部門」
テレビドキュメンタリー番組

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
NHKスペシャル 被爆者 命の記録 ～放射線と闘う人々の60年～ 平成 17.8.6(土) 21:00～22:13 NHK広島放送局	制作統括 千葉 聡史 湯澤 克彦 ディレクター 横井 秀信 渡辺 由裕 取材 二階堂浩行 笠原 裕之 撮影 山口 大純 編集 羽富 宏文 出演 被爆者の 方々 児玉 光雄 寺前 妙子 畠中百合子 前田 邦男 片岡 脩 本田 重雄 鎌田 七男	人類史上、初めて大量の放射線を浴びた爆心地から半径 1000メートルの地域。この地域にいた 85パーセントの人が死亡。奇跡的に生き残った人々の体にも放射線による深い傷が残り、60年後の今、がんが多発している。 番組は、放射線がいかに関の体を痛めつけるか、広島大学の調査に基づいて明らかにし、被爆者たちの体と心の苦しみをみつめる。 爆心地から 876メートルの広島一中で被爆した児玉光雄さんは、10年前から様々ながんに苦しめられ、この10年ほどで14回の手術を行った。転移するがんではなく、別々の場所に次々とがんができる重複がんだ。 被爆から60年。被爆者たちは、今も放射線の傷と闘いながら懸命に生きている。	被爆から60年経って、なお発病するがんに毅然として立ち向かう人々を被爆者の目線で丁寧に描いた作品。 昨年の本賞と同じNHK広島放送局の制作だが、今年を受賞作品は、原爆のもたらした「今」を掘り下げ、人間としての尊厳を大事にしながらみつめている点が高く評価された。 放射線が人間をいかに痛めつけるかを描いて、静かな説得力があり、原爆について改めて考えさせられる番組となっている。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
日曜ノンフィクション ある出所者の軌跡 ～浅草レッサーパンダ事件の深層～ 平成 17.6.5(日) 14:00～14:55 北海道文化放送	プロデューサー 吉岡 史幸 構成 高橋 修 ディレクター 後藤 一也 撮影 八重崎邦宏 撮影助手 小俣 誠一 編集 平原 賢志 MA 依本 慎也 ナレーション 勝村 政信	2001年4月、女子短大生刺殺事件が、東京・浅草で発生した。レッサーパンダの帽子をかぶり犯行におよんだ犯人は、札幌出身の強制わいせつの前歴がある軽度の知的障害を持った男だった。報道は過熱したが、事件の背景を探るメディアはほとんどなかった。事件を担当していた後藤記者は、刑務所に軽度の知的障害者が大勢服役していること、そして、出所後の社会復帰の援助制度が皆無であることを知る。番組は、ある知的障害を持った男性出所者への同行取材をし、出所後にどのような現実に向き合うのか、その実態を追うことで、刺殺事件を生んだ背景と再犯防止のための課題を浮き彫りにしている。	犯罪の向こうに、気づかない側面がある、その盲点を浮き彫りにした秀作である。 出所した1人の男性との同行取材が、そのまま、事件の深層を浮き彫りにする番組構成が秀逸。 ディレクターの発想力と実行力が高く評価された。

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	梗概	選考理由
<p>第 20 回民教協スペシャル 戦争を笑え ～ 命ぬ御祝事さびら！ 沖縄・伝説の芸人ブーテン～</p> <p>平成 18.2.11 (土) 10:00～10:55</p> <p>沖縄テレビ放送</p>	<p>プロデューサー 川上 正 山口 栄健 秋元 隆</p> <p>ディレクター 山里 孫存 構成 渡邊 修一 カメラ 大城 茂昭 編集 山城 和豊 リサーチ 黒井 美嘉 語り 伊武 雅刀 出演 平良 とみ 登川 誠仁 照屋 林助 ほか</p>	<p>60 年前、戦争で全てを失った沖縄の人々を、絶望の淵から救った男がいた。</p> <p>「ヌチヌグスーヅサビラ(命のお祝いをしよう)！」と、どこからともなく現れ、暗い顔をした人々に声をかけ、奇妙な歌を唄い、奇天烈な踊りを舞い、“笑い”で生きる希望を振りまいたという。</p> <p>伝説の芸人の名は、小那覇舞天(おなはぶーてん)。沖縄に初めて現れた漫談芸人。戦争もヒットラーも笑いのネタにして、人々を爆笑の渦に巻き込んだ。歯科医だったというブーテンの知られざる人生を通して、今なお「戦争」と隣り合わせに生きる沖縄から、今までの“戦争もの”とは違ったアプローチで「命の尊さ」を伝える。</p>	<p>沖縄の目線で作っており、沖縄の人にとっては心待ちにしていた作品となっている。</p> <p>戦争を笑いとばした「舞天伝説」は、戦場、基地と続いた沖縄の歴史に対する沖縄自身による痛烈な否定であり、戦後 60 年ものなかでも優れた作品。</p>
<p>NHKスペシャル 沖縄 よみがえる戦場 ～ 読谷村民 2500 人が語る地上戦～</p> <p>平成 17.6.18 (土) 21:00～21:52</p> <p>NHK 沖縄放送局</p>	<p>制作統括 石原 勉 ディレクター 内山 拓 池本 端</p> <p>撮影 矢倉亜希子 森山 慶貴</p> <p>照明 梶浦 竜司 音声 鈴木 篤史 取材 坂田 一則 音響効果 上温湯大史 編集 八角 勝利 語り 広瀬 修子</p>	<p>昭和 20 年 4 月 1 日、米軍が沖縄本島の読谷村に上陸した。村民を巻き込んだ沖縄地上戦が始まる。</p> <p>読谷村が「村史・戦時記録」として、最近まとめた 2500 人の証言をもとに、番組は、「逃げ場のない地獄」と言われた沖縄戦の実態を住民の視点から描いていく。米軍の包囲が狭まる中での集団自決。原生林を逃げ惑う中での餓死。日本軍による住民殺害事件。戦場に丸腰のまま放り出された村民が直面した戦争の現実が体験証言で明らかにされていく。</p>	<p>過酷な戦争に巻き込まれた住民の苦悩が切実に伝わってくるドキュメンタリー番組。</p> <p>「読谷村史」をもとに、地上戦の実態を具体的な証言で明らかにしている。証言記録としても貴重。証言者の高齢化が進む中で、戦後 60 年ならではの番組となっている。</p>

テレビドキュメンタリー番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>大地の選択 ～ 遺伝子組換え論争</p> <p>平成 17.5.30 (月) 10:25 ~ 11:20</p> <p>札幌テレビ放送</p>	<p>プロデューサー 今田 光春 ディレクター 佐々木 律 撮影 館脇 雄次 音声 林 幹夫 アシスタントディレクター 安居 智美 編集 佐々木 博</p>	<p>2004年10月、日本一の大豆産地、北海道長沼町で、1軒の畑作農家が、国内では初めて「遺伝子組換え大豆を栽培したい」と表明した。その理由には、規模拡大を目指す国の農業政策の転換があった。しかし、周辺の農家は、他の作物との交雑を恐れ、一斉に反対した。</p> <p>一方、長沼町に移り住み農業を営むアメリカ人男性は、先人の知恵や技術を育み伝えていく日本の地域農業を評価し、アメリカのような効率重視型農業を取り入れるべきではないと訴える。</p> <p>遺伝子組換え作物の是非をめぐって、番組は「指針なき国の農政」の姿勢に翻弄される地域農業の現状を浮き彫りにした。</p>	<p>これからの日本の農業が抱える問題を地域の視点でしっかりと提起している。</p> <p>いま、発生しつつある、生きているテーマを描いているだけに、追求しきれていない部分はあるが、そのことがかえってアクチュアリティを生み、実は、大きな問題を示しているのがわかる。</p>
<p>NHKスペシャル 立花隆最前線報告 サイボーグ技術が人類を変える</p> <p>平成 17.11.5 (土) 21:00 ~ 22:14</p> <p>NHK</p>	<p>制作統括 藤木 達弘 ディレクター 岡田 朋敏 近江 真子 撮影 加藤 覚 渡辺 正良 音響効果 小野さおり 編集 榎戸 一夫 語り 柴田祐規子 リサーチ・コーディネーター 山田功次郎 CG制作 石原 渉 出演 立花 隆</p>	<p>機械と体、脳を一体化したサイボーグ技術の最先端を評論家の立花隆さんがリポートする。</p> <p>サイボーグ技術は、神経工学の発達で、医療や福祉、産業、軍事などあらゆる分野に革命を起こしている。最新の研究開発では、脳とコンピュータを直結させ、さらに、脳の機能を機械で拡充するという人類の改造につながることも可能となっている。</p> <p>サイボーグ技術を人間の可能性を広げるために使うのか、それとも、軍事利用など人間の破壊本能を爆発させるために使うのか、そのことが今、問われている。</p>	<p>サイボーグ技術の最先端とその目指すものを映像で分かりやすく伝え、優れた情報番組となっている。</p> <p>世界の科学者、倫理学者とのインタビューでサイボーグ技術には福音と危うさの両面があることを明らかにしており、立花隆さんの起用が成功している。</p>

第32回 放送文化基金賞
「番組部門」
- テレビドラマ番組 -

本 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
クライマーズ・ハイ 前編 平成 17.12.10 (土) 19:30 ~ 20:45 NHK	原作 横山 秀夫 脚本 大森寿美男 音楽 大友 良英 制作統括 若泉 久朗 演出 清水 一彦 出演 佐藤 浩市 大森 南朋 新井 浩文 岸部 一徳 石原さとみ 赤井 英和 岸本加世子 杉浦 直樹 ほか	1985年8月12日、日航ジャンボ機が墜落した運命の日。群馬県の地方紙・北関東新聞社で遊軍記者をしていた悠木和雅（佐藤浩市）は、事故の取材指揮をとる全権デスクに指名される。墜落場所を巡って情報が錯綜する中で、悠木は、長野県が現場を意味する「長野・群馬県境の山中」の見出しを選ぶ。しかし、現場は地元・群馬県の上野村御巢鷹の尾根だった。悠木の敗北続きの日航ジャンボ機墜落事故の報道は、こうして始まった。 興奮状態が極限にまで達し、恐怖感が麻痺する「クライマーズ・ハイ」。締切りが迫り、一瞬の判断が問われる新聞社の編集局。そこには険しいもう1つの山があった。未曾有の大事故を前に、地元新聞社の記者としての自負と挫折、家族との関係、組織との軋轢が、本音をぶつけあう緊迫したセリフによって浮かび上がる。	日航機墜落事故の悲劇を背景に、大事故の報道に直面した地元新聞社のデスクの緊迫の日々を描いた力作。 命の重さと報道する者の使命、そして、組織との軋轢をめぐる本格的な社会派ドラマ。興奮状態が極限にまで達する「クライマーズ・ハイ」状況が、緊迫したセリフのやり取りで見事に映像化されていて、「ドラマらしいドラマ」に仕上がったと評価された。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
女王の教室 第1回、最終回 第1回 平成 17.7.2 (土) 21:00 ~ 22:09 最終回 平成 17.9.17 (土) 21:00 ~ 22:24 日本テレビ放送網	脚本 遊川 和彦 音楽 池 頼広 プロデューサー 大平 太 ディレクター 山本 由緒 大塚 恭司 岩本 仁志 渡部 智明 編成担当 福地 聡 出演 天海 祐希 羽田美智子 原 沙知絵 泉谷しげる 内藤 剛志 ほか	小学6年生になった和美（志田未来）のクラスに、冷酷無比の謎の女教師、阿久津真矢（天海祐希）が担任としてやってくる。いきなりテストが行なわれ、成績上位者に特権を与え、落伍者には、徹底的な差別をする真矢の独自の教育が始まる。不満をもらす生徒たちに「いい加減、目覚めなさい。日本という国は、特権階級の人達が楽しく幸せに暮らせるように、あなたたち凡人が安い給料で働き、高い税金を払うことで成り立っているんです…」と表情一つ変えることなく、冷たく言い放ち、生徒を追いつめていく。 最終話、生徒は真矢の本当の目的に気づく。真矢は、生徒がこれから出て行かなければならない厳しい社会を、自分が壁となり、乗り越えさせる力を教えていたのだ。	オリジナルの脚本で、従来の学園ドラマとはまったく違うものを創りあげた。作品の持つ強烈なメッセージ性、新しいキャラクターの創造、教育にまつわる既成概念に、あえて挑戦した独自性がある。「覚悟を持って作る」という制作側の姿勢が高く評価された。

テレビドラマ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>正月時代劇 新選組!! ～土方歳三 最期の 一日～</p> <p>平成 18.1.3 (火) 21:00～22:29</p> <p>NHK</p>	<p>演出 吉川 邦夫 制作統括 安原 裕人 吉川 幸司 作 三谷 幸喜 音楽 服部 隆之 美術 岡島 太郎 技術 川崎 和彦 音響効果 小野寺茂樹 撮影 永野 勇 照明 関 康明 音声 山賀 勉 映像技術 吉田 賢治 出演 山本 耕史 片岡愛之助 吹越 満 佐藤 B作 ほか</p>	<p>新政府軍の総攻撃を翌朝に控えた箱館五稜郭。箱館政府総裁・榎本武揚(片岡愛之助)は、翌日、新政府軍へ降伏することを決める。</p> <p>一方、戦いの中に死に場所を求めている土方歳三(山本耕史)は、降伏の決定を聞き、再考を促すべく榎本を訪ねる。立場も価値観も異なる2人は、言葉を重ねるうちに、忘れていたあることに気づく「あきらめないこと」。さらに、土方と対立していた陸軍奉行・大鳥圭介(吹越満)も加わり、3人は生きるための戦いに挑む。</p>	<p>新選組に対する定説に、脚本家の新しい解釈が加わり、新たな物語を完成させた。土方、榎本、大鳥3人のセリフのかけあいは、テンポがよく面白い。</p> <p>巧みな脚本でテーマの盛り上げに成功している。</p>
<p>ドラマW 対岸の彼女</p> <p>平成 18.1.15 (日) 20:00～21:50</p> <p>WOWOW オーバー・ゼロ</p>	<p>監督 平山 秀幸 脚本 神山由美子 藤本 匡介 原作 角田 光代 プロデューサー 青木 泰憲 西口 典子 出演 夏川 結衣 財前 直見 多部未華子 石田 未来 堺 雅人 木村 多江 香川 照之 ほか</p>	<p>人付き合いが下手で、言いたいことも我慢してしまう性格の35歳の主婦・小夜子(夏川結衣)は、再就職先の会社で同じ歳の独身社長・葵(財前直見)に出会う。人間関係に臆病になっていた小夜子は、開けっぴろげで大雑把な性格の葵との交流を通して、次第に心を開いていく。明るく楽天的な葵だが、実は少女時代の暗い記憶を持つ。</p> <p>葵はいじめを避けて転校した学校で、快活な少女・魚子と親友になるが、実は魚子も家庭に問題を抱えていた。</p> <p>そして、現在と過去、2組の女性の友情はやがて思いもよらない転機を迎える……。</p>	<p>30代の女性の友情という微妙な問題を、淡々としたセリフと映像でリアルに描いた。</p> <p>過去と現在の2つの物語を交叉させる展開の後、ラストシーンで現在の2人の女性が過去の少女たちと河岸に並んで見つめ合う情景が心に染みる。</p> <p>清涼感があり、大人のドラマとして楽しめる作品。</p>

第32回 放送文化基金賞

「番組部門」

ラジオ番組

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
1949年のボレロ ～金沢アメリカ文化 センター小史・占領 と交流の日々～ 総集編 平成 18.3.20(月) 12:00～12:58 えふえむ・エヌ・ワン	取材・原稿 梅岡 和也 レポート 長谷川 幸 音声技術 大西 宏明 構成 宮崎 正倫 レージョン 鳴尾 健 出演 上丸 満 多田 治夫 井上 豊夫 京藤 松子 ほか	1949年3月27日、占領下の金沢で、初めてのレコードコンサートが開かれた。処はアメリカ占領軍が設けた「金沢スキャップ図書館」のラヂオ作作曲の「ボレロ」など、蓄音機から流れるクラシックの曲に人びとは聞き入った。この建物は占領の終わる52年に「金沢アメリカ文化センター」として生まれ変わり、67年に閉鎖されるまで、両国の文化交流の役割を担うことになる。3年にわたり、多くの関係者や利用者、研究者に取材を続けた。「ボレロ」が主題を16回繰り返すように16人の語り部が登場して、戦後、地方で繰り広げられた日米の文化交流を綴っている。地方に暮らす市民が戦後最初に触れたアメリカへの新鮮な驚きと戸惑い、そして今も金沢に住む人びとの豊かな思いが伝わってくる。	戦後60年の年、地方都市金沢における戦後の日米文化交流の第一歩を民間人の視点でとらえた新鮮な作品。 地方に暮らす市民が戦後、最初に触れたアメリカへの新鮮な思いと戸惑い、そしてその後の親しい交流のエピソードが豊富に語られ、心暖まる作品となっている。
土曜ジャーナル シンガーソングライ ター・松本哲也 ～大切なあなたへ捧 ぐ歌～ 平成 17.4.2(土) 22:15～22:55 NHK盛岡放送局	制作統括 長又 厚夫 近藤 敏之 構成 山口 勝 鹿野 睦 取材・構成・高井 正智 報告 技術 西田 俊和 音響効果 武田 公二 出演 松本 哲也 堀江 通代 (故人) 畠山 葉子 岩淵 恵美 松尾 剛 歌詞朗読	岩手県水沢市出身のシンガーソングライター、松本哲也さん、28歳。5年前、東京のラジオ局が主催するストリートミュージシャンのコンテストで優勝。2年後、夢と思っていた自分のCDが全国のレコード店に並んだ。以来、各地の児童養護施設や少年刑務所に足を運ぶ。自らも少年時代の大半を児童養護施設で過ごした。14歳のとき、傷害事件がきっかけで盛岡市にある児童自立支援施設に入る。ここで、音楽の講師をつとめていた堀江通代さんに出会う。「あなたには音楽の才能がある」と励まし続け、その後の彼の生き方を決定づけた人だ。こんな大人もいるという思いに素直になっていったと話す松本さん。いま、母そして堀江さんの死を乗り越え「児童養護施設を作るのが夢」と語る。	今の日本人が抱えている「痛み」の部分を鮮烈に語った作品。無償の愛によって、立ち直る青年 自立とは何か？への問いに一つの具体的な回答を示してくれた。 情緒過多にならず、小品としての構成も良く、後味の良い作品。

ラジオ番組賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	梗概	選考理由
<p>ガクランを着た乙女達</p> <p>平成 17.5.29 (日) 26:00 ~ 26:59</p> <p>RKB毎日放送</p>	<p>プロデューサー 安田 瑞代 レporter 津川 洋二 ディレクター・構成・脚本 安増 高志 技術 中村 香奈 出演 応援団OBの皆さん ほか</p>	<p>50年の歴史を誇る福岡県戸畑高校応援団は、本来男子だけで応援団を構成してきた。平成12年、その応援団に女子が入団。男子のガクラン姿に憧れたという2人は、激しい練習に耐え、女子応援団員の基礎を築いた。その伝統は4人の女子に引き継がれ、初の女子応援団長も誕生した。だが、4人が3年生になった時、男子部員がゼロになってしまう。そして平成17年春、応援団の伝統を受け継いだのはたった一人の女子団員だった。番組はガクラン姿で伝統を守る歴代女子応援団員の奮闘ぶりを追う。</p>	<p>男子部員がゼロで、女子応援団長誕生という、まさに時代の勘どころを押さえた作品で、歴代女子応援団員一人一人が語るエピソードが楽しい。巧まざるユーモアが滲み出ている。最後までひきつけられる上質のエンタテインメント作品。</p>
<p>ザ・ライン ～僕たちの境界線～</p> <p>平成 17.5.30 (月) 5:00 ~ 6:00</p> <p>エフエム東京</p>	<p>プロデューサー 延江 浩 レporter 勝島 康一 レporter 手島 里華 構成 白滝 桂子 取材 東谷 彰子 武藤 智子 田中 豊 出演 白 眞勲 丸目 蔵人 崔 徳孝 呉 徳周 沢 知恵 後藤由多加 中谷 剛 宮沢 和史 ほか</p>	<p>「反日」で現れた日本とアジア諸国の境界線。日本をよく知り、日本とアジア諸国との歴史問題にも直面して生きてきた在日朝鮮人の人たちの話を中心に、私たちが考えなければならぬことは何なのかを探る。</p> <p>日本人の父と韓国人の母をもち、韓国で初めて日本語で歌った歌手となった沢知恵さんは「韓流ブーム」は表層的。日本人はあまりにも過去の歴史を知らなさすぎる。まだ戦後60年、日本はまだ開き直れる時ではない」と語る。</p>	<p>日本人が戸惑うことの多い「反日」の源について在日朝鮮人の人たちが語るメッセージ性の強い番組。特に「韓流ブーム」と「反日」のギャップについて語る歌手の沢知恵さんの発言は、鋭く、重い。</p> <p>戦後60年を迎え、考えさせられることの多い作品。</p>

第32回放送文化基金賞

「番組部門」- 個別分野 -

出演者賞

受賞者	対象番組	選考理由等
あまみ ゆうき 天海 祐希	女王の教室 第1回、最終回 (日本テレビ放送網) テレビドラマ番組	「悪魔のような鬼教師・阿久津真矢」というヒーロー・ヒロインを少しのプレもなく信念を持って、新しいキャラクターを創り上げた。際立った個性で、特異なキャラクターを説得力十分に演じたことが高く評価される。

出演者賞

さとう こういち 佐藤 浩市	クライマーズ・ハイ 前編 (NHK) テレビドラマ番組	地方新聞社のデスクとしての誇りと挫折感。この難しい役回りをどこか不器用さを感じさせる存在感と演技力で見事に表現した。職場での軋轢、衝突にぎりぎりまで立ち向かう迫力ある演技が、実際にあった大事故に基づくとドラマにリアリティを与えた。
-------------------	---------------------------------------	---

企画・制作賞

かわかみ ただし 川上 正 やまざと まごあり 山里 孫存	第20回民教協スペシャル 戦争を笑え ～命ぬ御祝事さびら！ 沖縄・伝説の芸人プーテン (沖縄テレビ放送) テレビドキュメンタリー番組	今も「戦争」と隣合せにある沖縄の歴史を“笑い”で吹きとばす発想がたくましい。沖縄の戦後のスタートを沖縄の目線で描く秀作。
--	---	--

企画賞

つがわ ようじ 津川 洋二 やすだ みずよ 安田 瑞代	ガクランを着た乙女達 (RKB毎日放送) ラジオ番組	男子部員がゼロとなった戸畑高校応援部。歴代の女子応援団員が語るエピソードが楽しく、巧まざるユーモアが滲み出ていた。若者の声を自然に拾い上げて、最後まで引き込まれる。優れた企画が上質のエンタテインメント作品を生んだ。
--------------------------------------	--------------------------------------	---

映像賞

やまくち ひろすみ 山口 大純	NHKスペシャル 被爆者 命の記録 ～放射線と闘う人々の60年～ (NHK広島放送局) テレビドキュメンタリー番組	放射線で苦しむ被爆者の心と体に寄り添うような映像表現が、問題の深刻さを静かに訴えて、説得力がある。被爆者を見つめるまなざしが人間性豊かで、しかも、ドキュメンタリーにふさわしい距離感を保っている。
--------------------	---	---

第32回放送文化基金賞

「個人・グループ部門」

- 放送文化 -

受賞者	業績	業績内容・選考理由
いのうえ ゆみこ 井上 由美子 (脚本家)	優れたテレビドラマの脚本の執筆	テレビ東京に勤務後、1991年に脚本家デビュー。NHK・民放に活躍の場をもち、現代劇から時代劇、ミステリーまで幅広く手掛ける。デビュー当時から一貫して、時代や社会との関わりで人間を見つめる鋭い視点と、矛盾に満ちた人間の内面と行動を生き生きと描く造形力で、1作1作を丁寧に描いてきた。オリジナル作品も多く、数多い同世代の脚本家の中でも、群を抜いて作家性豊かな力作を生み続けている点が、高く評価された。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
ながしま こうへい 長嶋 甲兵 (テレコムスタッフ 演出家・プロデューサー)	既存の枠を越えた新しい手法による番組の制作と演出	1960年生まれ。84年テレコムスタッフ入社。様々な文化領域をテーマに、独創的で一風変わったスタイルの魅力的なテレビ番組を演出してきた。98年「詩のボクシング」(放送文化基金賞受賞)をはじめ、柔軟な思考と豊かな想像力で演出された作品の数々は、既存のジャンルを越え、常にテレビ界に新風を吹き込んでいる。昨年は、「シリーズ憲法～第96条・国民的憲法合宿」(フジテレビ)で、護憲・改憲の2元論の虚妄性と議論の必要性を生き生きと描いた。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK『あの日 昭和20年の記憶』制作グループ (NHK、NHKエデュケーショナル、東京ビデオセンター)	戦後60年にふさわしい番組の企画・制作	「あの日 昭和20年の記憶」は、敗戦から60年目にあたる昨年1年間毎日、NHK衛星第2で放送された9分の帯番組。のべ200人以上の「あの日」を生きた著名人の証言と、昭和20年の1日1日の出来事を重ね合わせ、1年間を通じて、立体的・重層的に当時の日本人の時代の記憶を蘇らせた。戦争の記憶が薄れ、時の生き証人が亡くなっていく今日、体験者の話にきちんと耳を傾け、記録し、放送を通じて今の世代に伝えたことが高く評価された。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK『列島縦断 鉄道乗りつくしの旅』制作グループ (NHK、NHKエンタープライズ、えふぶんの壱)	日めぐり中継による新しい紀行番組の確立	「鉄道乗りつくしの旅」は、日本列島20000kmのJR全線を走破しようという企画で、昨年の春と秋、日曜を除く毎朝15分間(B Shi)放送された。俳優の関口知宏が、鹿児島県枕崎駅から北海道根室駅まで、のべ69日間、自由気ままな旅をする中で遭遇する出来事が、どこか懐かしくほのぼのとさせられると幅広い世代の支持を集めた。毎朝の出発駅からの生中継によって、旅の臨場感が更に高まり、ロケと中継が効果的に融合した新しい紀行番組となった。

第32回放送文化基金賞

「個人・グループ部門」

- 放送技術

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
マージン測定装置 開発グループ 代表 佐藤 誠 (日本テレビ放送網)	地上デジタル放送 用マージン測定装 置の開発	デジタル放送の電波の品質は、従来のアナログ放送のように映像や音声の劣化のみでは評価できないため、受信点での余裕度(マージン量)を検出することが重要である。このため観測受信点での映像と音声のモニターと同時に、余裕度や時間的変動が自動的に測定できる装置を開発して製品化した。今後、地上デジタル放送の全国展開とワンセグサービスの普及に有効に活用できる。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
地上デジタル放送ハイビジョン移動受信 開発グループ 代表 高田 政幸 (NHK)	地上デジタル放送 ハイビジョン移動 受信方式の開発と 実用化	移動する車両などで、地上デジタルハイビジョン放送を受信することは困難であった。このため車両に2~4本の受信アンテナを搭載したスペースダイバーシティ受信技術を用い、キャリア1本1本ごとに同相合成する信号処理技術を開発して移動受信を可能にした。本方式を用いたハイビジョン移動受信可能なカーテレビが商品化されており、地上デジタル放送の移動受信の普及に寄与している。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
SFN放送波中継用 回り込みキャンセラ 開発グループ 代表 澁谷 一彦 (NHK)	SFN放送波中継 用回り込みキャン セラの開発と実用 化	地上デジタル放送では、多くの中継局を限りある電波で建設するために、放送波と同じ周波数チャンネルを利用して、再び中継局から送信するSFN(単一周波数ネットワーク)が有効である。この場合、中継局から出た電波が再び受信される「回り込み」現象を起こすことがある。この現象を除去する「回り込みキャンセラ」を開発し、設備コストの低廉なSFN中継局を実用化した。今後、周波数チャンネルの利用効率の向上に貢献することができる。

受賞者(所属)	業績	業績内容・選考理由
デジタルFPU方向 調整支援システム開 発グループ 代表 梶原 巧 (TBS)	デジタルFPU方 向調整支援シス テム「見つける君」 の開発	中継現場から映像や音声を伝送する可搬型無線伝送装置(FPU)の運用では中継回線の品質を確保するために、送受信のアンテナの方向調整が重要である。初期段階では受信電波が微弱であるため方向調整が困難であるが、デジタルFPUでのOFDM方式の信号波形に着目し、微弱電波であってもノイズに埋もれた伝送信号を検出してメータ表示する技術を開発して実用化した。これによりデジタルFPU中継回線の確保が敏速かつ容易に行えるようになった。